

令和6年3月26日

於

府中市役所

令和5年度第3回

府中市総合教育会議 会議録

府中市政策経営部政策課

令和5年度第3回府中市総合教育会議 会議録

- 1 開 会 令和6年3月26日(火)
午後3時00分
閉 会 午後3時56分

- 2 出席者
市長 高野 律 雄 (議長)
教育長 酒 井 泰
委員 日 野 佳 昭
委員 平 原 保
委員 増 淵 達 夫
委員 山 下 和 則

- 3 欠席委員
なし

- 4 教育委員会事務局出席者
文化スポーツ部長 佐 藤 直 人
文化生涯学習課長 鈴 木 正 憲
文化生涯学習課長補佐 斎 藤 麻 美
教育部長 矢 夕 崎 幸 夫
教育部副参事兼指導室長 隅 田 登 志 意
教育総務課長 田 中 啓 信
教育総務課長補佐 若 山 貴
指導室教育支援担当主幹 菅 原 尚 志
指導室教育指導担当主幹 濱 田 昌 也
指導室長補佐 南 學 進

- 5 市長部局出席者
政策経営部長 石 橋 純 一
政策課長補佐 高 橋 翔
政策課主査 上 地 翔
政策課主任 兵 動 早 菜

6 議事内容

- (1) 協議題1 令和6年度府中市の教育に関する予算について
- (2) 協議題2 郷土府中を愛し、誇りに思う子どもの育成について

7 傍聴者の数

1名

8 発言内容

○市長 それでは、只今より、令和5年度第3回府中市総合教育会議を開催させていただきます。教育長並びに教育委員の皆様には、お忙しい中ご出席いただき、心より感謝を申し上げます。また、日頃より、府中市の教育にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

本日は、協議題1「令和6年度府中市の教育に関する予算について」、協議題2「郷土府中を愛し、誇りに思う子どもの育成について」の2件について、ご協議をお願いいたします。皆様に活発なご意見をいただき、教育に関して市長部局と教育委員会の連携を更に深め、本市の教育行政を一層推進していきたいと存じますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

◎傍聴許可

○市長 協議題に入ります前に、この会議は法律及び当会議の運営規程により公開が原則とされており、本日傍聴希望の方がお見えですので、傍聴を認めることとしてよろしいでしょうか。

○教育長、教育委員 異議なし

○市長 それでは、傍聴を認めます。

◎協議題1 令和6年度府中市の教育に関する予算について

○市長 それでは会議次第に沿って議事を進めてまいります。はじめに、協議題1「令和6年度府中市の教育に関する予算について」です。

令和6年度当初予算につきましては、前回の12月26日開催の第2回総合教育会議におきまして、教育長から、教育委員会における令和6年度施策展開の方向性についてご説明をいただきました。その後、1月の政策経営会議を経まして、市の予算案として確定し、本年第1回市議会定例会に議案として提案をさせていただいた結果、無事に可決され、予算が成立いたしました。教育委員の皆様におかれましては、この総合教育会議をはじめ、日頃より様々なご意見をいただくなど、予算編成にご協力をいただいたことについて、改めて感謝を申し上げます。

それでは、令和6年度の教育に関する予算について、資料に基づき、主な内容を説明させていただきます。

総合教育会議資料1をご覧ください。令和6年度の一般会計予算額は、1,278億3千万円で、前年比で84億3千万円の増となっております。このうち、教育費は約266億5千万円で、全体の20.8%を占めております。

さて、私は、去る1月28日執行の市長選挙におきまして、引き続き、府中市長の重責を担わせていただくことになりました。これまでの3期12年で行ってまいりました各取組の実績を踏まえた上で、府中市長として4期目のスタートとなる令和6年度の市政運営に当たりましては、本市の次の飛躍を期する年とすべく、3つのテーマを掲げ、各施策を進めてまいります。

1点目のテーマは、市制施行70周年やケヤキ並木が国の天然記念物に指定されて100周年を迎えることから、府中の歴史を振り返り過去の教訓を活かした事業展開や、過去の災害を教訓に新たな防災対策を行うなど安全なまちづくりに向けた「故きを温ねる」、2点目は、まちづくりの原点である地域の絆を協働の力で紡ぎ、誰一人取り残さないまちづくりを目指す「やさしきで包む」、3点目は、子育ての充実を図るとともに、持続可能な社会の創り手を育み、DXの推進やゼロカーボンシティの実現に向けた「未来へはばたく」であります。

この3つのテーマのもと、第7次府中市総合計画の都市像である「きずなを紡ぎ 未来を拓く 心ゆたかに暮らせるまち 府中」の実現に向けて、様々な施策を積極的に展開してまいります。

次に、資料の右側に移りまして、教育費の主な新規・レベルアップ・投資的事業等について、ご説明します。なお、文頭に星印がついているものは、市制施行70周年記念関連事業となっております。

学校教育関連では、新規事業として、市立小中学校の学校給食費の無償化に伴い、食物アレルギー等を理由に弁当を持参する児童・生徒を対象に、学校給食費相当額の助成金を交付するため、その事業費について予算化しています。

また、レベルアップ事業としましては、令和6年度から開設される子ども発達支援センターにおける教育相談の充実、今年度から全校に設置したサポートルームの拡充、そして協定を締結するトップチーム等に外部指導員を依頼するとともに、土日の部活動における部活動指導員を配置することで、部活動の充実を図っていくための各施策について、予算化をしています。

投資的事業では、教育センターの移転に伴う整備工事や初度備品の購入、また学校施設の老朽化対策として、第三小学校及び第六小学校の改築工事に必要な予算を用意いたしました。

次に、文化・スポーツに関連する予算といたしましては、市制施行70周年記念関連事業として新規に実施する、研究テーマを設定し、研究成果の募集、選考、研究発表会などを行う府中子ども博士事業、6年ぶりの開催となる府中多摩川マラソン、そして図書館資料や施設を活用した図書館謎解きイベントを実施するための予算を決定しています。そのほか、令和6年度に完了する市史編さん事業について、完了を記念したパネル展示や講演会の実施、

新たな総合体育館の役割や機能、規模等を示す基本構想の策定のための経費を、新規事業として決定しています。

レベルアップ事業としましては、美術館における記念展覧会や、トップチームとの連携による子どもたちを対象とした取組を、市制施行70周年記念関連事業として実施するとともに、内藤家住宅の適切な保存・整備・活用に向けた取組や、国の天然記念物に指定されて100周年を迎えるケヤキ並木について、保護管理計画の策定や周年記念のイベント等を実施するための予算を決定いたしました。

また、投資的事業としまして、武蔵国府跡における第2期整備基本計画の策定や、ふるさと府中歴史展示室の整備をすることなどについても、予算化をさせていただいております。

教育委員の皆様におかれましては、既に1月の教育委員会定例会にて、内容についてご審議いただいていることと思いますが、ここで改めてご報告をさせていただきます。

それでは、来年度の予算の内容等について、ご意見などございましたらお願いいたします。

○日野委員 教育に関して、手厚い予算を組んでいただき、大変有り難く思っております。本日は、少子化に関して、考えを述べさせていただきます。

我が国の少子化は危機的状況です。若者は経済的な不安により、「結婚しない」という選択をする人が増加傾向にあります。大きな原因の一つは、低賃金や不安定な雇用といった非正規雇用にあります。多様な働き方が推奨され、厳しい経済状況を強いられワーキングプアとなっていることです。社会保険料の増加は特にこの年代に、より大きな負担をかけています。民間では、政府による賃上げの要請が叫ばれています。一方、自治体における非正規職員の増加は、官製ワーキングプアとも言われています。

教育の場でも、教職員の給与制度改革の関連で臨時的任用職員、非常勤講師、支援員、補助員が増加しています。将来へのリスクを覚悟し、不安定な身分の非正規職員から、ようやく正規職員に就くというキャリアルートには問題があります。崇高な使命と、職責の重要性が求められるため、優れた教職員の確保は重要な課題です。文科省も、非正規職員の割合の増加は、学校運営面や教育内容の質の維持・向上の面で問題としています。

働き方改革、育休、産休の促進により、ますます非正規職員は正規職員の代替えとして必要となります。SDGsによる同一労働同一賃金の観点からも、非正規職員の待遇を改善し、可処分所得を増やす事が必要であり、少子化への対策として、自治体も民間に先んじて、「隼より始めよ」ということが問われます。

○市長 少子化について、まさに危機的な状況にあるということは私も同じように捉えております。府中市においても、出生数がここ数年、毎年100人ずつ少なくなっており、昨年の出生数は約1,500人でした。市立小学校における1学年の平均人数が約2,300人であることを考えると、これからさらに児童・生徒の数が減ってきてしまうことが危惧されます。少子化の要因の一つとして、経済的な状況の不安定さが挙げられると、結婚適齢期の若い人たちの声から認識しております。

府中市役所の職員についてですが、決して正規職員の数を減らし、その分、非正規職員を充てているということではなく、これまでと同様の正規職員数を維持しつつ、しっかりと研鑽

を積むよう働きかけているところであります。そこに加えて、時代の変化に伴う新たな課題等が次々と生じてきていますので、時間額制や月額制の会計年度任用職員の数を増やして対応することがございます。国全体として、こういった雇用形態をどのように考えるかなどを参考にしながら、今後も市民に提供するサービスの質が低下しないよう努めてまいります。また、学校の教職員については、東京都の職員ということになりますが、東京都においても同様の対応がされていると思っており、引き続きしっかりと連携していきたいと思っております。

○平原委員 資料1に、学校教育のレベルアップ事業として学校経営支援事業費が掲載されています。こうして予算を確保していただくことにより、全小中学校に設置されているサポートルームの人的・物的環境が整備されます。このことにより不登校児童・生徒あるいは不登校傾向にある児童・生徒への指導や支援が充実していくと期待できます。本予算を有効に活用して、各学校の実情や当該児童・生徒の実態に即した対応をしていただき、子どもたちの心の居場所となり、多様な学びの保障ができることを願っています。

○市長 サポートルームについては今年度から始めた事業であり、昨年の夏に開催した市長と語る会において、現場の先生たちからその効果について意見をいただき、また先日の市議会の中でもサポートルームの充実については積極的に進めていくべきであると意見をいただきましたので、この度しっかりと予算化させていただきました。今後もしっかりと学校現場でサポートルームを活用していただけるようお願いしたいと思います。

○増淵委員 まずはこの総合教育会議で、予算について大変丁寧に意見交換をさせていただいていることに感謝申し上げたいと思います。校舎等改築事業費や教育センター整備事業費などは、ハード面で大変お金のかかるものがございますが、将来の市の教育の充実のために、必要な予算措置が講じられたと考えています。

レベルアップ事業として計上されている学校経営支援事業費や部活動指導費について、予算を立てていただいたからには子どもたちのために適切に執行していただく必要があると思いますが、これまでの執行状況はどうなっていますでしょうか。レベルアップということで今年度とは内容が異なってくるかもしれませんが、今年度の執行状況が分かれば教えていただきたいです。また、人材が求められる事業については、適切な人材の確保に努めていただきたいと思っております。

○市長 校舎等の改築事業につきましては、現在2校がほぼ完成し、2校が工事中となっております。令和6年度中に、次に改築する学校を決めていき、子どもたちの学習環境を良好な状態に維持できるようにしていきたいと思っておりますので、今後も予算を充てていくことを躊躇わず、事業を行ってまいります。また、教育センターの整備についても、しっかりと行ってまいります。

学校経営支援事業費や部活動指導費の執行状況については、指導室から説明していただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

○南學指導室長補佐 ただいまご質問いただきました学校教育の分野のレベルアップ事業の2つ、学校経営支援事業費及び部活動指導費の執行状況につきましてご説明させていただきます。

できます。確定しております令和4年度の執行状況でご説明させていただきますと、学校経営支援事業費は全体で90%の執行状況、部活動指導費につきましては93%の執行状況で、いずれも非常に高い執行状況でございます。令和5年度につきましても、令和4年度と同等もしくはそれ以上の執行状況になるものと見込んでおります。来年度、このレベルアップ分をサポートルールの拡充や部活動指導の一層の推進に活用してまいりたいと考えております。

○山下委員 武蔵国府跡やふるさと府中歴史館に係るものなど、投資的事業がとても魅力的であると感じました。しかし、事業全体にイえることかもしれませんが、広く市民に周知していくという情報発信の部分が弱いような気がしています。府中市にはたくさんの魅力があると思いますので、情報発信に工夫をしてもらえれば、より多くの市民に府中市は魅力あふれるまちであると感じてもらえるのではないのでしょうか。

○市長 PRが下手であるというご意見をいただくことがあります。私自身としては決してそうではないと思っています。広報紙やホームページ、その他SNSでしたり、また新庁舎に移転してからはデジタルサイネージも活用しながらいろいろな情報を発信するようにしておりますが、やはり市民の皆さんの生活の中に入り込んでいくためには、多様な方法が必要であると考えております。今後も決して手を抜かずに、しっかりと各PRに力を入れていきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

では、教育長からもお願いいたします。

○教育長 はじめに、学校教育及び社会教育の各分野につきまして、令和6年度も教育委員会の施策の方向性を踏まえて予算編成をしていただいておりますことに感謝申し上げます。

市立小中学校の学校給食費を当分の間、公費負担することに加え、食物アレルギー等を理由に弁当を持参する児童・生徒を対象とした学校給食費相当額の助成金交付が進められますことが、学齢期の子どもがいる家庭の負担軽減につながり、重ねて感謝申し上げます。

また学校施設に関する予算につきましては、府中第三小学校及び府中第六小学校について、令和7年度当初から新校舎での学校運営を開始する準備を進められますことは、府中市立小中学校における良好な学習環境の実現に大きく寄与できるものと考えております。なお、府中市学校施設改築長寿命化改修計画につきましては、令和6年度に改定し、市としての具体的な方針を定めてまいりたいと思っています。

令和6年度から開設される子ども発達支援センター「はばたき」における教育相談の充実や、全校に設置されているサポートルールの拡充、令和7年度に開設予定の学びの多様化学校及び教育センターの移転に伴う整備工事を推進できますことは、本市の教育上の喫緊の課題であります、いじめの防止対策、不登校対応の一層の充実に資するものとなります。

また、トップチームとの連携を推進する環境を整えていただいたことは、部活動の地域連携、地域移行を進める上で大きな力となります。府中市にふさわしい持続可能な部活動となるよう検討を進めてまいります。

社会教育に関する予算では、市制施行70周年を記念した事業として、子ども博士事業、図書館謎解きイベント、美術館の記念展覧会、府中多摩川マラソンなど様々な企画に予算を

お認めいただいております。児童・生徒たちにとって、府中の良さを再発見するきっかけとなる取組が数多く実施されることとなります。

また、令和6年度に完了する市史編さん関連事業、国の天然記念物指定100周年を迎えるケヤキ並木の保護管理計画及び武蔵国府跡における第2期整備基本計画の策定、ふるさと府中歴史展示室の整備、そして新たな総合体育館の基本構想策定など、府中の文化スポーツの今後の方向性を決める各種取組を着実に進めてまいりたいと思います。

今後も、市長部局と連携させていただきまして、それぞれの施策を計画的かつ着実に推進させ、本市の学校教育及び社会教育を充実し、発展させてまいる所存です。よろしく願いいたします。

○市長 教育長及び教育委員の皆さんからご意見をいただきましたが、私からも皆さんに申し上げておきたいと思うことがございます。小中学校の学校給食費の無償化については、本来は国が実施すべきものであると考えておりますが、国から措置が講じられない中では、食育の充実のためにも、市独自で行っていくことが適切であると思っています。しかし、この無償化を行うためには、府中市においては年間約10億円の経費が必要となり、その金額を一般財源で賄おうとしますと、他のいろいろな事業から経費を削った上で捻出しなければなりません。そうなりますと、ここはやはり子どもたちをみんなで育むための基金を創設することで、まち全体として、少子化の中において子どもを産み育てる人たちを支えていく必要があると考え、この度、子ども・子育て応援基金を創設するに至りました。子育てをしっかりと見守っていくんだという私の気持ちを、是非皆さんにもご理解いただければ有難いと思い、お話をさせていただきました。

ありがとうございました。それでは協議題1については以上とさせていただきます。

◎協議題2 郷土府中を愛し、誇りに思う子どもの育成について

○市長 続きまして、協議題2「郷土府中を愛し、誇りに思う子どもの育成について」です。市制施行100周年を迎える30年後には、現在、学校で学んでいる子どもたちは、ちょうど盛んに活動し、社会を支える年代になっています。地域の課題解決に最前線で臨み、また、地域をより一層盛り立てていく、そのような活動に積極的に取り組んでいただくためには、やはり子どもの頃から郷土愛を育んでいくことが重要だと考えます。本日は、ふるさと府中の魅力に気付き、誇りを持つ子どもたちの育成についてご説明いただき、情報の共有と意見交換をさせていただきたいと思います。

それでは、教育長からご説明をお願いいたします。

○教育長 それではお手元の総合教育会議資料2の「郷土府中を愛し、誇りに思う子どもの育成」という資料をご覧くださいと思います。府中市教育委員会では、学校と地域が学校の教育活動を通じて、よりよい社会を作るという目標を共有し、協働して、郷土府中への誇りと愛着を持った持続可能な社会の作り手となる人材を育成していくために、様々な教育活動を実施しております。お手元の資料をもとに、4つの取組について概要をご説明申し上げます。

はじめに、令和4年度から実施しております「未来へつなぐ府中2020レガシー」の取組といたしましては、オリンピック・パラリンピック及びラグビーワールドカップの開催を機会に取り組んできたボランティア体験や、おもてなし事業等の活動を継続するとともに、ESD教育や府中の自然、伝統文化を学ぶ「ふるさと学習」の取組を関連付けて、6つのテーマに基づいた教育活動を実施しております。各学校は府中の自然や文化、人的資源を活用し、家庭や地域等と連携を図りながら、歴史文化への理解を深める活動や、多摩川清掃などの環境保全活動をはじめ、多様で特色ある体験的な教育活動を展開しております。

続いて2番の「武蔵府中郷土かるた」についてですが、この郷土かるたは毎年市内小学校に通う第3学年の全児童に配付し、かるた遊びや調べ学習のテーマ、社会科の教材にするなど、現在も幅広く活用されております。かるたの読み札から府中市の自然や文化行事、歴史などに興味を持つことにより、授業に積極的に参加できるようになるなど、効果的な学習教材として活用され、子どもたちに親しまれているものです。

また、3番でございますが、今年、国の天然記念物指定100周年となる「馬場大門のケヤキ並木の保存、発展に向けた取組」では、学習を「知る・学ぶ」、「調べる・考える」、「実践・行動する」という3つの段階に分けて、それぞれの段階で学習活動を工夫して実施しています。「知る・学ぶ」というところの学習では、地域が取り組んでいるケヤキ並木の保存活動について、教育委員会が動画を作成し、その動画資料などを活用してケヤキ並木について理解を深めました。「調べる・考える」という学習では、1人1台配付されておりますタブレット端末を活用して、市立小中学校の児童・生徒にケヤキ並木の保全に関わるアンケートを実施し、ケヤキ並木を守っていくために自分たちができることを考えるきっかけ作りを行いました。最後、「実践・行動する」学習では、全ての市立中学校の生徒会役員が集まる生徒会リーダー研修会で、中学生の立場で具体的に実践できることについて協議するなど、将来、自分たちがこの府中を担うという意識を持ち、府中をもっとよりよくするためにはどうすればよいかという視点で考えました。これらの活動を「未来へつなぐ府中2020レガシー」と関連させて、より一層充実させていくことを通して、ケヤキ並木を含む地域の自然環境に目を向け、大切にしようとする意識の醸成を図っています。

資料右側に移りまして、4番「授業の教材としての活用」のところでございますが、教育委員会では郷土府中を題材とした教材を独自に作成し、学校の授業やその他の教育活動で活用しております。本日参考として用意しましたこの冊子でございますが、今年度、全面改訂を行った道徳の副読本「郷土府中に根ざした道徳資料集」でございます。以前、同じ題名のものを冊子で配り道徳の時間等で活用していましたが、内容が古くなったこともありまして、今年度、全面改訂をしたものでございます。以前に掲載していた題材を再利用する場合にも、社会環境や自然環境、地域社会等の変化が起こっておりますので、その変化に対応した内容になっているかを確認し、加筆や修正を行っております。そして現在、新規の題材といたしまして、武蔵府中熊野神社古墳、府中囃子、けやきプロジェクト、どんど焼き、地域総合防災訓練など、府中市の史跡や文化財、自然保護活動、伝統行事等を取り入れて道徳の教材とさせていただいております。令和6年度は、本資料を活用して道徳の授業をはじめ、

道徳授業地区公開講座や土曜授業等の機会を通じて、保護者の皆様や地域の方々とともに、ふるさと府中について学び、府中市に愛着と誇りを持つ活動を推進してまいりたいと思っております。また、社会科の副読本として作成しております「わたしたちの府中」と「郷土府中」を活用し、府中の地形や土地利用、産業、地域安全及び防災の取組、受け継がれる伝統・文化等について、児童・生徒に興味関心を持たせるとともに、市内巡りや多摩川観察など、体験的な学習により学びを深め、広い視野から郷土について考えることができるようにしております。この社会科の副読本は、以前は紙の冊子で子どもたちに配っていましたが、現在はデータで提供することとしております。

先ほどからいろいろな場面でお話がございましたが、令和6年度は市制施行70周年の年ですので、この記念すべき年を契機に、様々な取組を一層推進して、郷土府中を愛し、誇りに思う子どもの育成に力を入れてまいりたいと思います。説明は以上です。

○市長 ありがとうございます。それでは教育長からご説明いただきましたが、委員の皆さんからご意見などございましたらお伺いいたします。

○山下委員 私は生まれも育ちも府中市なのですが、育った地域ではあまりお祭りに関わることがなく、くらやみ祭りも開催されてると思うくらいで、遊ぶ際は他市に足を運んでしていました。ただ、高校生の頃、市外の学校に通っていたのですが、そのときに府中市ってどんなところという話になり、当時はまだ街中にダストボックスがありましたので、指定のごみの日がなく、いつでも家庭ごみが捨てられると自慢をし、自分の住むまちのことを改めて見つめる機会がありました。子育てをするようになった頃に市内で転居をし、今住む地域はお祭りが盛んなところなので、そこで府中市はお祭りへの想いが強いまちであると思うようになったのですが、お祭りに携われない地域もあるのかなと感じておりました。この会議ではない別の会で、郷土愛を育む授業は何だろうと考えたことがあり、そこでやはり郷土かるたが有効なツールだと思いました。私も小学生のときに郷土かるたを貰い、よく遊んでいたのですが、大人になった今でも、同級生と集まった際などに話題になり、読み札の句を思い出し合うことがあります。読み札の句も深掘りすると興味深いものが多いため、この郷土かるたを有効に活用した授業ができればよいと思っております。

○市長 この郷土かるたを通して、郷土愛を育み、まちへの愛着を持ったという経験は私にもあります。郷土かるたは昭和48年に制作されたとありますので、昨年でちょうど50周年を迎えたということになりますが、これからも末永く子どもたちに使っていただきたいと思っております。また、教育長にご説明いただいた道徳資料集についても、学校現場やご家庭で活用していただければ有難いと思っております。

◎その他

○市長 最後に、次第の「2 その他」といたしまして、本日の協議題のほかにお気づきの点等、何かございましたらお願いいたします。

○増淵委員 郷土愛の協議題のところ、発言するタイミングを逃してしまったので、そちらのテーマに対する意見も併せて述べさせていただきます。郷土学習というのはいろいろ

なところで行われていますが、持続可能で豊かなものにするためには、何のために郷土学習をするのかという教育的な意義を全ての先生方、それから子どもたちがしっかりと理解する必要があると思っています。例えば、教科書を使って学ぶということは全国共通のことですが、郷土学習をすることにより知った地域のこと、または地域の人たちに係る問題が、教科書に書かれているこういったことなのかと、自分との関わりにつなげていくことができ、学ぶことの意義に気付ける、また主導者教育にもつながってくると考えます。「Think Globally, Act Locally」とよくいいますが、やはり地域の課題が地球全体の課題につながっていきますので、地域での活動を通して、子どもたちはグローバルな視点を身に付けていくことができるのではないのでしょうか。地域を素材とした様々な学習が、国語や数学、英語などにも関わってくるということを自覚できるようなカリキュラムマネジメントが必要なのではと思っています。府中市のいろいろなものが教育資源になると考えており、是非この郷土府中への愛着を育むという取組は、もっと推進できるとよいと思いました。

「その他」についてですが、公立学校にはどのような役割があるのかということはずっと考えていました。私立学校に進学する志向が強まっている中で、ただ設置義務があるからということではなくて、教育的な意義としての公立学校のあり方というものを考えていく必要があるのではないのでしょうか。地域で子どもを育てるという点が、公立学校の大きな魅力であり、教育委員会と市長部局が連携を深めながら行うべきものだと思います。また、府中市内には大学や研究機関がいろいろとありますので、そういったところとも連携し、一緒に子どもたちの実態について分析・研究をしたりしながら、未来の府中の教育のあり方について、時間をかけて考えていくべきではないのでしょうか。そういったデータを積み重ねて研究していくというお金は、校舎を建てるといったことよりも少額で済むはずなので、積極的に考えていく必要があると、本日の協議題の2つを見ながら思いましたので、意見を述べさせていただきます。

○市長 私立学校との比較というようにお話をいただきましたが、私の考えを率直に申し上げますと、私立学校はそれぞれの考えや特色があり、それに基づき学びが行われるわけですが、公立学校においては、地域における生活、そして学び、また人間関係、こういったことの基本を学ぶところから始まると思っています。また、今お話いただいたように、あらゆる学びの支援が、広いフィールドの中に存在するということが、公立学校の最大の特徴であり、最大のメリットであると考えますので、これからはしっかりと地域における資源を有効活用するカリキュラムを編成していただいて、学びを一層促進していきたいと思えます。

○平原委員 私も郷土愛の協議題について、意見を述べさせていただきます。教員として関わった立場からしますと、子どもたちがふるさとを愛することについては、まず興味関心を持つことが大事であると思っています。先ほど山下委員から郷土かるたのお話がありましたが、数年前に、私が小学校で授業を教えていた子たちが成人し、クラス会を開くということで招かれた際に、そこで郷土かるたのことが話題になりました。府中を離れて生活している方も多くいますが、皆読み札の句を諳じることができ、府中への想いを強く感じ

ました。これからも是非、50年以上続いているこの郷土かるたを活用し続けてほしいと思いました。

この度全面改訂された道徳資料についてですが、非常に良いものができているなど感動しました。フォントもユニバーサルデザインが採用されていて誰にとっても見やすい工夫がされていると感じますし、教育長からご説明がありましたが、旧資料で取り上げられた題材を再度利用する場合でも、現在に即した形に編集され、また新たな題材も取り入れられており素晴らしいと思います。表紙についても、府中市に興味を湧くようなデザインであり、また飢饉を救った平右衛門や二千年蓮の大賀博士が出てきており、ここでも郷土かるたとの繋がりがあるため、両方の資料を大事に使っていただきたいという思いがあります。

市政施行70周年を迎えますので、このタイミングを契機に、郷土かるたや道徳資料に光を当て、子どもたちだけではなく大人たちも府中に興味を持つようなきっかけになるとよいと思います。家庭の中でも、郷土かるたや道徳資料のことが話題になり、府中市を愛する気持ちが培われていくとよいと思っています。

○市長 郷土かるたについては、想いがあるという方が本当に多い印象です。また、郷土資料は大人になって読み返しても、この郷土についていろいろな想いが巡ってきますので、それぞれのご家庭でもご活用いただければと思います。また、違う場所で生活をされてから府中市に来られたという方も多いことを考えますと、府中市のことを知っていただくということの大切さを改めて感じました。

他にはいかがでしょうか。

○市長 他には無いようですので、以上で本日の協議事項は全て終了とさせていただきます。最後に事務局から連絡がありましたらお願いいたします。

○事務局 事務局から1点連絡がございます。今年度の開催につきましては本日で最後となります。次年度につきましても同様に3回程度開催を予定してございます。時期が近くなりましたら、日程調整の連絡をさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。連絡は以上でございます。

○市長 本日の開催につきましては、大変ご多忙のところお時間をいただきまして、また熱心にご協議をいただきましてありがとうございます。

なお、増渕委員におかれましては、教育委員としての任期満了に伴い、総合教育会議への出席も本日が最後となります。これまで、本市の教育行政に多大なご貢献をいただき、改めて御礼を申し上げます。最後に増渕委員から一言、ご挨拶を頂戴できればと存じます。

(増渕委員からの挨拶)

○市長 増渕委員、ありがとうございます。以上をもちまして、令和5年度第3回府中市総合教育会議を終了させていただきます。

以上